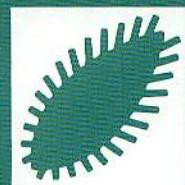


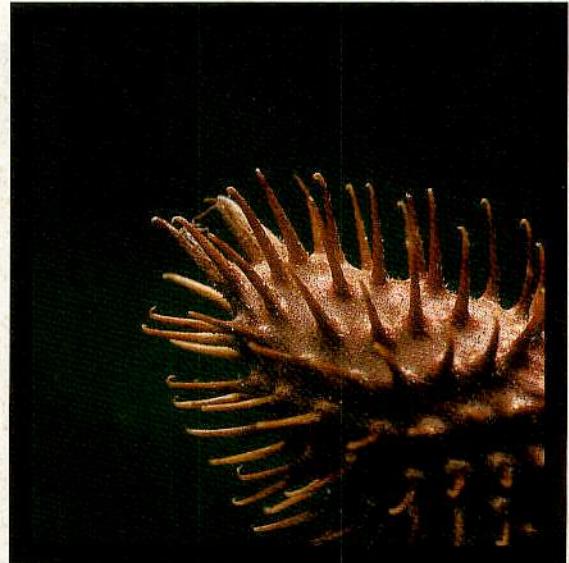
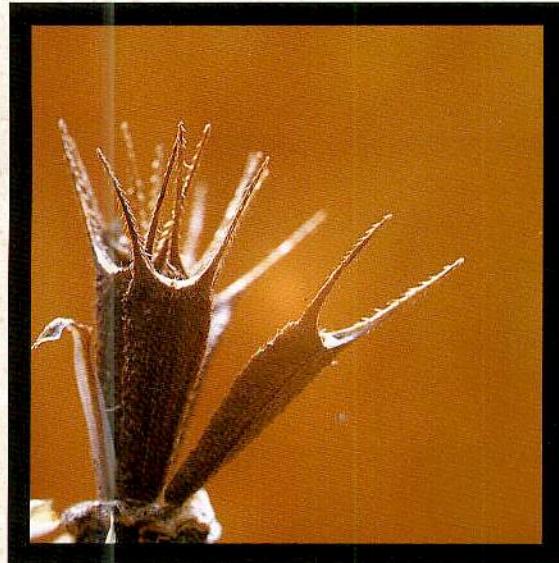


第5回緑の国勢調査

# '96 身近な生きもの調査



●調査のてびき●



環 境 庁

# '96 身近な生きもの調査



## 目 次

はじめに	2
調査の概要	3
こうやって調べてください	4
①森や林を歩こう	5
②草はらを歩こう	6
③水辺や湿地を歩こう	7
ハイキングや登山の機会に	8
ひっつきむし図鑑	9
調査票の記入のしかた	14

## はじめに

このてびきを手にされたあなたは、自然に大変興味をお持ちの方でしょうか、それともこの調査のことをお聞きになって、初めて自然に目を向けようと思われた方でしょうか。みなさん、それぞれの思いがあることと思います。

このてびきは、調査のやり方やひっつきむしの見分け方などについて説明したものです。調査を始める前に、ひととおり目をとおしておいてください。わかりにくい点は、どうぞご遠慮なく、自然環境調査室へお問い合わせください。

今回の調査が、みなさんの身の回りの自然をもう一度見つめ直すきっかけになればと、願っています。実際に調査を始めてみると、分からなくなったり、とまどったりすることもあるかと思いますが、調査期間は十分にありますので、じっくりと、みなさんのペースでやってみてください。

## 身近な自然の変化を知るために

雑木林や草地、田んぼや畑の周辺は誰にとってもなじみ深い環境です。しかし、都市化とともに少なくなった環境は、まず森林、続いて農耕地でした。東京近郊の武蔵野台地では、1947年から61年までの14年間に樹林地は半分以下に減り、1958年から74年までの16年間に田んぼや畑は3分の1になってしまいました。同時に、そのような環境の周辺で見られた動植物も姿を消してきました。こうしたことは、全国のどこの都市の周辺でも起きていることでしょう。

私たちの身の回りの自然はどこでも同じというわけではなく、それぞれの土地でそこに固有のものです。しかしそれは人間活動の影響で損なわれやすく、一度損なわれると、その価値も忘れられてしまいます。

そこで、身の回りの身近な自然を残すために、その今の姿をみんなで確認しておこうというのが、今回の「ひっつきむし調査」のねらいです。

植物は動物とちがって動き回ることはなく一ヶ所にじっとしていますが、いろいろな方法でタネを広く散布し、子孫を広げてゆきます。鳥に食べられて糞と一緒に遠くへ運ばれるもの、タネや実に翼や羽が付いていて風で遠くまで運ばれるもの、そして、実にトゲやカギをつけてひっつきむしとなって、動物の毛や人の衣服について遠くに運ばれるものがあります。

オナモミやイノコヅチなど、ひっつきむしをもつ雑草が皆さんの身近な場所にどのくらい生えているでしょうか。そのような植物が育つ雑木林や草地が今も残っているでしょうか。今回の調査の結果はそんな疑問を明らかにしてくれるでしょう。

# 調査の概要

## 調査に使う資料

### ①調査のてびき

今お読みいただいているこの冊子です。この冊子には、大きく分けて、調査全体の流れ、調査のやり方、調査結果の返送方法などが書いてあります。

調査を始めるまえにひととおりお読みいただき、このてびきに従って調査をすすめてください。

### ②調査票

調査結果を環境庁に報告するための用紙です。

14~15ページの記入例を参考にしてください。

### ③アンケート用紙

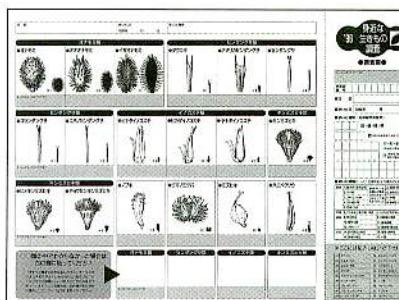
調査結果とは別に、参加形態や人数などについておたずねする用紙です。差し支えのない範囲でご記入いただき、調査票と一緒にお送りください。

### ④返送用封筒

調査結果を記入した調査票を環境庁に返送するときに使う封筒です。



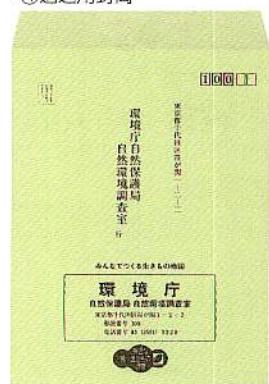
①調査のてびき



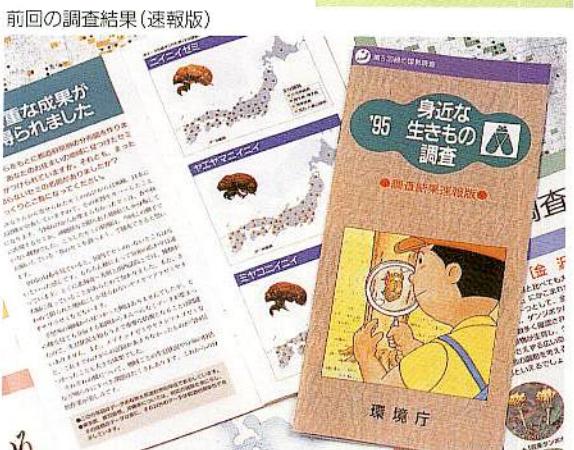
②調査票



③アンケート用紙



④返送用封筒



## 調査する範囲

調査はできる範囲ですすめてください。あらかじめ決められた調査範囲(場所)というものはありません。また、調査対象となっているすべてのひっつきむしを集める必要はありません。あなたが調べた場所で集まったひっつきむしだけを、調査票に貼って送ってください。

## 調査票の返送期限

1996年(平成8年)12月20日(消印有効)までに、まとめてご返送ください。

## 集計と調査結果の公表

みなさんから寄せられた調査票のデータはコンピュータに入力され、植物ごとの集計を行うとともに、全国あるいは地域ごとの分布図(生きもの地図)が作成されます。みなさんから寄せられたデータをもとに分布図を作成することによって、生きものから見た身近な自然の状況や都市化の影響などがわかるわけです。

こうした調査結果は新聞やテレビを通じてお知らせするとともに、調査票をお寄せいただいたみなさんは、できるだけ早く分布図などを盛り込んだ「報告書」をお届けします。

# こうやって調べてください

## 調査の進め方・歩き方

皆さんの日頃歩かれている散歩道などはもちろん、ハイキングや登山のおりに集めていただいてもかまいません。

歩く時間や距離が家のまわりの場合と、ハイキングや登山では異なりますので、調査のしかたを分けてご説明します。



自宅あるいは  
学校や職場の近所を  
歩いてみませんか

調査対象となっている18種のひつつきむしは、動物の体や人の衣服について運ばれるという性質は同じでも、生える環境は種類ごとに異なります。ですから、身近な地域のなかで、

### ①森や林

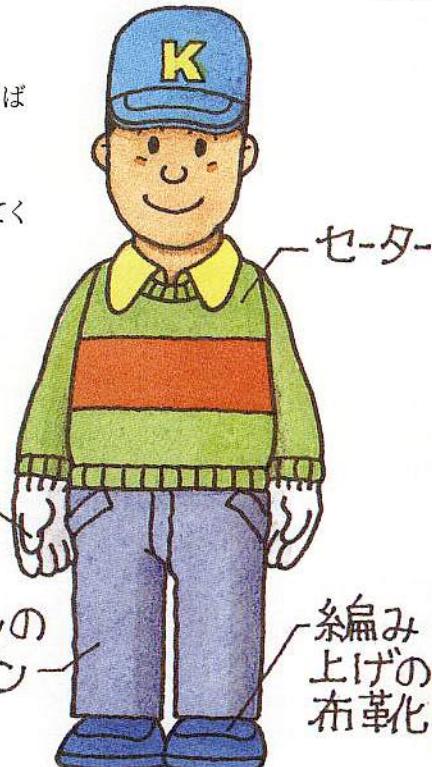
(ヤブでもかまいません)

### ②草はら

(埋立地や畑の周辺、道ばたなども含みます)

### ③水辺や湿地

と環境別に分けて歩いてください。



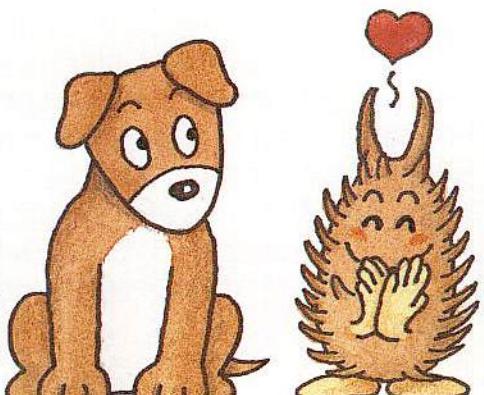
ハイキングや  
登山の機会にも  
さがしてみましょう

ハイキングや登山では、長時間、場合によっては1日中歩くことになり、その間に森林も、草原も、湿原もと様々な環境を歩くことになるかもしれません。歩いた環境ごとに衣服を代えるわけにもいきませんから、ハイキングの終点で衣服についたひつつきむしを集めてください。こんな機会に採集されたタネや実は、おもに全国的な分布図をつくることに役立つ資料が得られます。

## ひつつきむしに好かれる服装

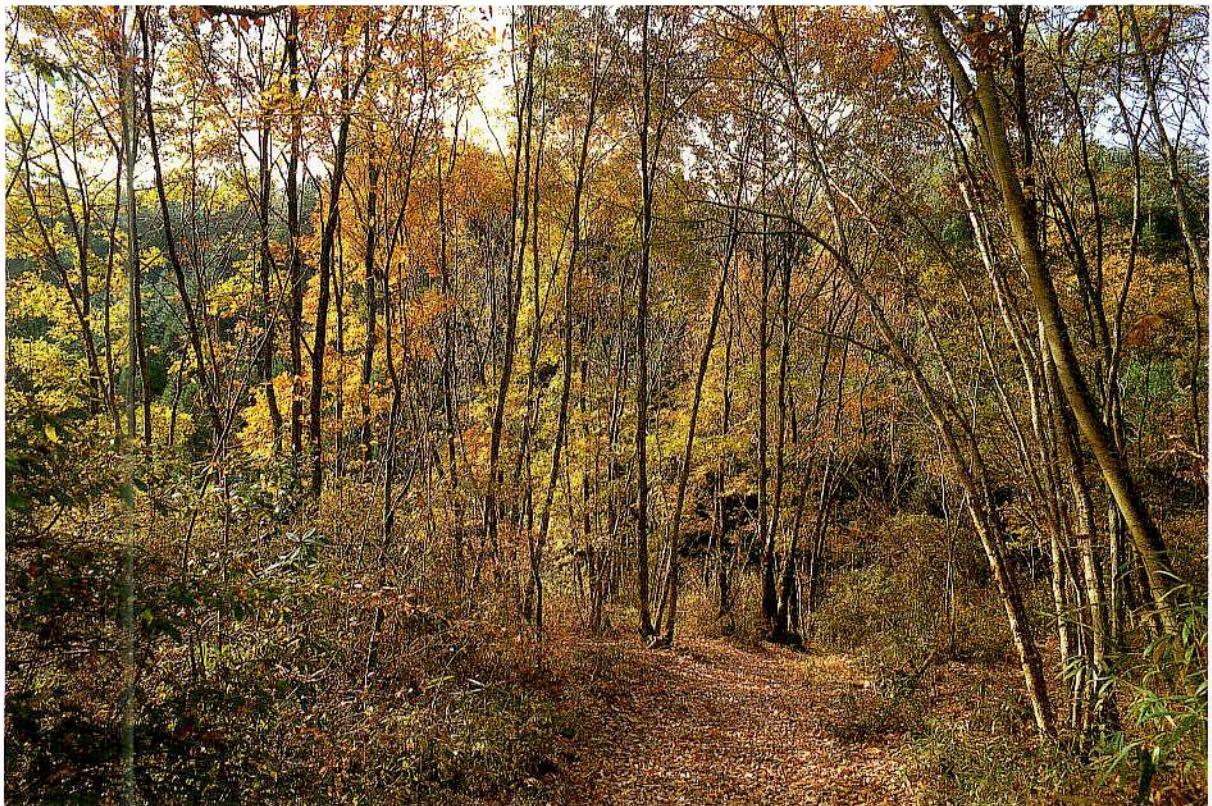
ひつつきむしをつける草はせいぜい1メートルほどの高さです。ズボンや靴下をはき、靴も編み上げの布靴などがひつつきむしがつきやすい服装です。セー

ターなどはたいへん効果があります。気候にもありますが、軍手などをはめて歩かれるのも良い方法かもしれません。また、犬の散歩などでは、犬の体もぜひ注意して探してみてください。





# 森や林を 歩こう

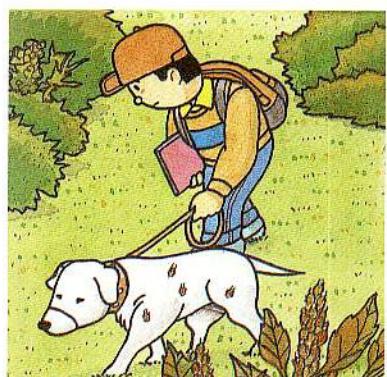


多くの木々が集まって日陰をつくり、地面には落ち葉が厚くつもっている、やや湿った環境

雑木林 マツ林 スギ・ヒノキ林 竹林・やぶなど

森や林の中の小道には、ミズヒキやキンミズヒキ、ウマノミツバなどが並んでいます。ノブキ・ヒカゲイノコズチ・ハエドクソウなどいずれも長い茎の先の方に小さな実をつけて動物や人が通るのを待ち受けているかのようです。

幅が広く、日が当たる幅の広い林道や林の縁にはヒナタイノコズチも見られます。林道の真ん中を歩かず、端を歩いてみてください。もし、犬の散歩中でしたら、ひつつきむしの多いヤブの中を行きつ戻りつしながら歩くことになるでしょう。たくさんのひつつきむしがつくと思います。





# 草はらを 歩こう



おもに草が生い茂り、木があってもまばらで、日当たりが  
とても良く乾燥しがちな環境

草地(野原、草原、カヤ原、放牧地、芝生)

畑の周辺

グラウンド

未舗装の道路 造成地・埋立地 都市の公園 など

草はらでは、オナモミ類(オナモミ・オオオナモミ・イガオナモミ)やセンダングサ類(コセンダングサ)などの一年生の植物が見られ、帰化植物が多いことも特徴です。林縁に生えるヒナタイノコズチなどはここでも見られます。

山地や丘陵地の草原にはキンミズヒキによく似たチョウセンキンミズヒキが見られることがあります。





# 水辺や湿地を歩こう

危険な所へは行かないでください



水辺や湿った草地。樹林があってもハンノキやヤナギ類などがまばらに生える程度で、日当たりのよい環境

田の周辺とあぜ

湿地・休耕田

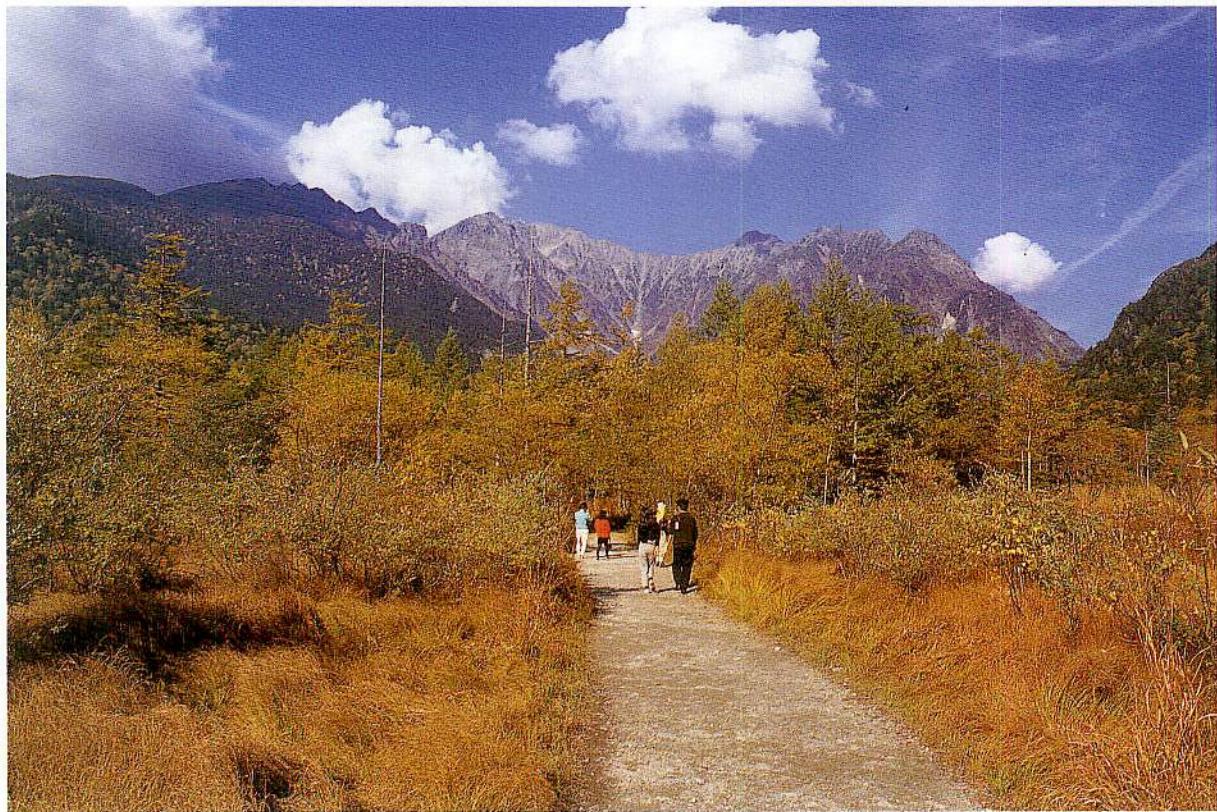
池沼の周辺 川 原 など

水辺や湿地では水田雑草のタウコギ、アメリカセンダンクサなどが見られます。あぜ道や用水路沿いの道を散歩する機会は少ないと私は思いますので、見つけたときは積極的に実に触れてみてください。いずれも1.5メートルほどになる大型の雑草で群生します。タウコギは除草剤などの影響で少なくなったといわれています。





# ハイキングや 登山の機会に



家のまわりの調査と同じように、森や林では林道の端や小道、林の縁に注目して歩いてください。草原などでは道に沿って歩けば、知らないうちにひつつきむしをたくさん探っていることになるでしょう。

たとえ都市から遠く離れた山奥でも、これまで都市とその周辺でしか見られなかった帰化植物が登山道や高原など思わぬところに侵入しているかもしれません。

泊まりがけの山歩きなどでは、1日ごとにズボンや靴などについたひつつきむしを取り除いて調査してください。

## 地名の記入について

都市やその周辺のように詳しい分布状況を知る必要はありませんが、それでもなるべく狭い範囲が特定できる地名で、歩いた場所を記入して下さい。例えば、歩いた山の名前だけでは山裾まで含めると、かなり広い範囲になってしまいます。大きな山では都道府県も変わります。できれば歩いた登山道の名前や通った集落の名前などを記入してください。

# ひとつきむし図鑑

ここでは調査対象種とした18種のタネや実の形をくわしく紹介します。  
あわせて、全体の形や葉の形、葉の付き方なども解説しますので、探すときの手がかりにしてください。  
記述を正確にするために、「実」は果実、「タネ」は種子と表記します。

## オナモミ類

オナモミ



オナモミは古くからなじみのある雑草ですが、ほかは帰化植物です。衣服についた果実を取ろうとするとますます強くくっつんで「揉むな」という言葉が名前の語源と考えられています。それだけ強い付着力があり、マジックテープのヒントとなつたともいわれています。

最近では、より強力な鉤つきのトゲを持ったオオオナモミがふえ、触ると痛いほどトゲの堅いイガオナモミも広がりつつあります。また、まれにトゲオナモミが見つかっています。

オナモミ類は、高さ1メートルほどになる1年草で、葉は大きく、先が大きく3つに分かれ、表面がザラつき、縁には不揃いなギザギザがあります。秋には茎の先に、長さ1~2センチの楕円体で、トゲに覆われた果実が集まってつき、2つの角が出ます。

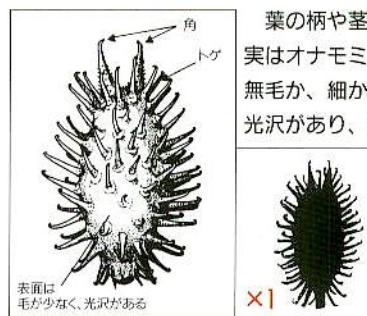
識別のポイントは熟した果実の色や、果実の表面の形状、毛の多少などです。

### ①オナモミ



果実は虫めがね（ルーベ）で見る  
と表面に細かな毛が生え、熟すと薄  
茶色になります。

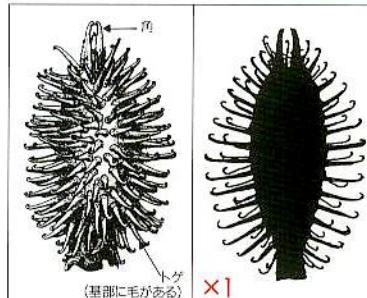
### ②オオオナモミ



葉の柄や茎は紫色を帯びます。果  
実はオナモミに比べ細身で、表面は  
無毛か、細かな毛があつても少なく、  
光沢があり、熟すと茶色になります。

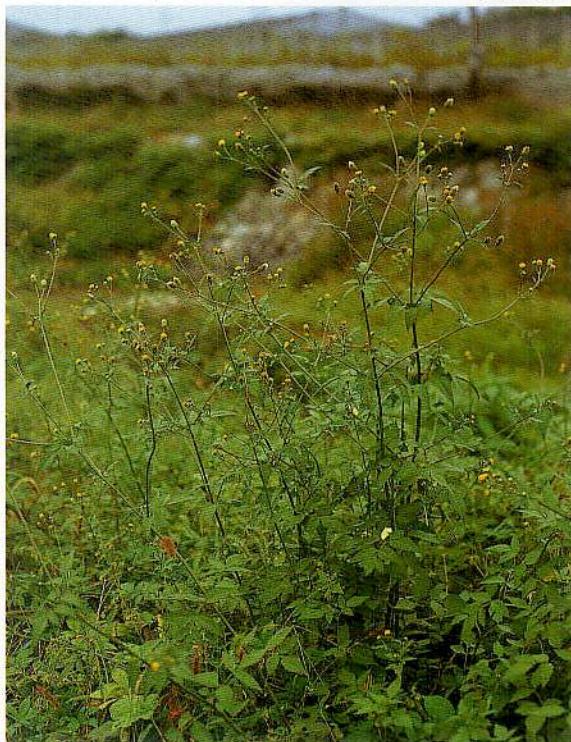
2本の角はオナモミ  
より長く突き出ます。

### ③イガオナモミ



オオオナモミよりも  
さらに大きな果実を  
付け、果実の表面や  
角やトゲには鱗片状  
の毛がたくさんあり  
ます。果実は熟すと  
オオオナモミよりも  
さらに黒っぽく、焦げ  
茶色になります。

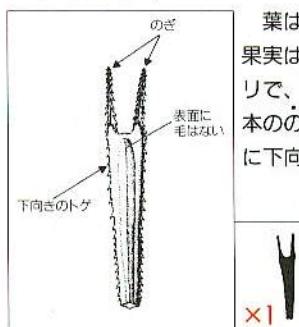
# センダングサ類



これもおなじみのひっつきむしで、冬にセーターを着て原っぱなどを歩き、後始末に困った経験をお持ちの方も多いと思います。果実が扁平でのぎが2本のタウコギ、果実の断面が四角くのぎが3、4本のセンダングサなどがあります。このほか湿原に生えのぎが2本のホソバノセンダングサ、のぎが4本のヤナギタウコギ、果実の小さなエゾノタウコギなどがあります。アメリカセンダングサは1920年代に日本に入った帰化植物です。

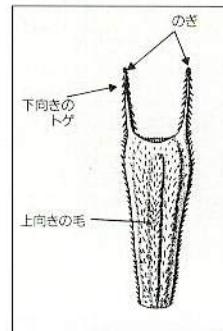
識別のポイントは果実の形、のぎの数、トゲや毛の生え方です。

## ④タウコギ



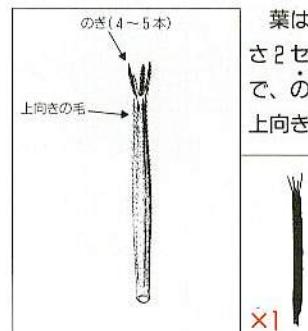
葉は3または5枚に分かれます。果実は長さ12~13ミリ、幅2~3ミリで、やや扁平です。果実の先に2本ののぎがあり、縁にはのぎとともに下向きのトゲが並んでいます。

## ⑤アメリカセンダングサ(セイタカタウコギ)



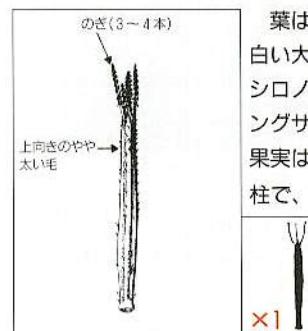
茎が紫色になる特徴があります。葉ははっきりとした柄を持ち、3または5枚に分かれます。花の集まりを長い総包片<sup>そうほうへん</sup>が取り囲んでおり、これは本種とタウコギだけに見られる特徴です。果実は長さ7~8ミリ、幅2~3ミリで、先は2本ののぎがあります。全体に上向きの毛が生え、のぎには下向きのトゲが並んでいます。

## ⑥センダングサ



葉は細かく分かれます。果実は長さ2センチ近くになる細長い四角柱で、のぎが4~5本出ます。全体に上向きの短い毛が生え、3ミリほどとのぎには下向きのトゲが並んでいます。

## ⑦コセンダングサ



葉は3または5枚に分かれます。白い大きな花びらの出るものにはコシロノセンダングサやシロノセンダングサと呼ばれる変種があります。果実は長さ12~13ミリの細長い四角柱で、上向きのやや太い毛がまばらに生え、先端にはのぎが3、4本出て、そこには下向きのトゲが並んでいます。

## ⑧コバノセンダングサ



葉は細かく分かれます。果実は長さ15~16ミリの細長い四角柱で、上向きの短い毛がまばらに生えます。下向きのトゲの並んだのぎが3、4本出ます。

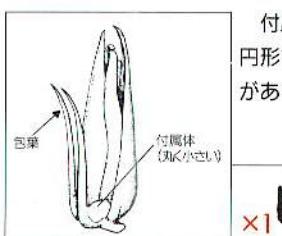
## イノコズチ類

ヒナタイノコズチ

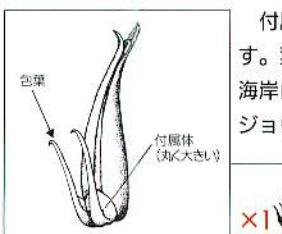


茎は切り口が四角形で、葉のつくところ(節)はふくらんでいます。果実は鳥のくちばし状で、長さ5~6ミリほど、茎の先に穂になってつきます。果実は5枚のがくで覆われ、その外側に2枚のトゲ状の包葉があります。この包葉の両側には膜質の付属体というものがあり、この大きさや形が識別の決め手のひとつです。トゲ状の包葉は外側に反り返り、動物の体にひっかかります。このほか沖縄県にはケイノコズチ、モンパイノコズチがあります。

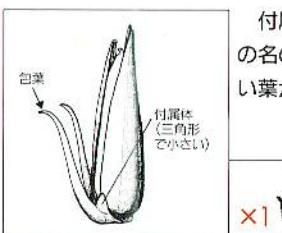
### ⑩ヒナタイノコズチ



### ⑪ヒカゲイノコズチ



### ⑫ヤナギイノコズチ



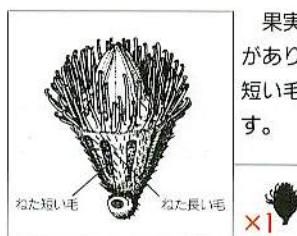
## キンミズヒキ類

キンミズヒキ



ミズヒキのように、小さな花が穂になって咲き、花が黄色なので、「金ミズヒキ」の名があります。果実の上部にはかぎ鉤のあるトゲが密生しています。識別のポイントは果実の大きさと、側面の毛の生え方です。

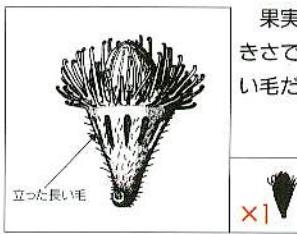
### ⑬キンミズヒキ



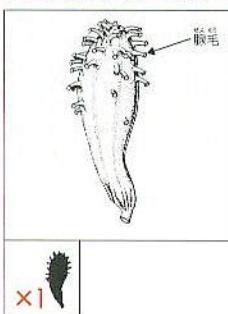
### ⑭ヒメキンミズヒキ



### ⑮チョウセンキンミズヒキ



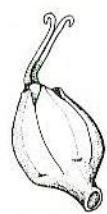
## ⑯ノブキ



フキ  
露に似た大きな丸い葉をつきますが、葉の柄にはヒレのような翼（よく）があるのが特徴です。果実は長さ5~6ミリの棍棒状で集ってつき、その上部には腺毛が生え、そこから出された粘着物でよく付着します。

×1

## ⑰ミズヒキ



赤い花が細長い茎に並んでいます。  
4枚の花被片のうち下方の1枚が白く、上と左右の花被片が赤いので、お祝い事に使う水引にみたてられました。果実は直径2~3ミリの球形で、雌しべの先に2ミリほど伸びた2つの花柱の先端が鉤になり引っ

かかります。葉に毛がほとんどないなどの特徴を持つシンミズヒキもミズヒキと同じようなところに生えており、果実もやや大型でそっくりです。分類学的にも近縁なので今回は区別せずに扱います。

## ⑯ウマノミツバ



ミツバに似ていますが、葉の多くは5つに裂け、全体に大柄なため「馬のミツバ」の名があります。果実は鉤のあるトゲで被われた長さ3~4ミリの楕円体が2つ合わさったものです。長野県や山梨県にはまれにこれによく似たヤマナシウマノミツバ

×1

が見られます。このほか日本には3種のウマノミツバ属の植物が見られます、花の時期が初夏であったり、果実に鉤のあるトゲがなかったり、ごく短かたりするので、ウマノミツバとの相違は明らかです。

## ⑰ハエドクソウ



便器に入るとウジがわかないことから蠅毒草の名があります。高さ60~70センチになり、葉は細長い卵形で対生します。花は茎の先端に長い穂をつくり、薄桃色です。3本のがく片の先端が黒色で、果実になるなどと鉤状に曲がって硬くなり、動物の

×1

体によくつきます。ナガバハエドクソウは分類学的にも品種とされるほど近縁なので、今回は区別せずに調査します。果実はイノコズチに似ていますのでよく観察してください。

# こんなのも見つかります

このほか代表的なひっつきむしにメナモミなどがあります。

ひっつきむしだけでは種類の見分けができないので

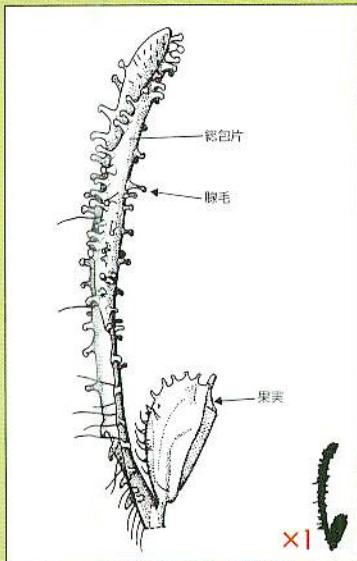
今回は調査対象としませんが、

主な特徴をあげますので、

調査対象種との違いを見分ける際の参考にしてください。

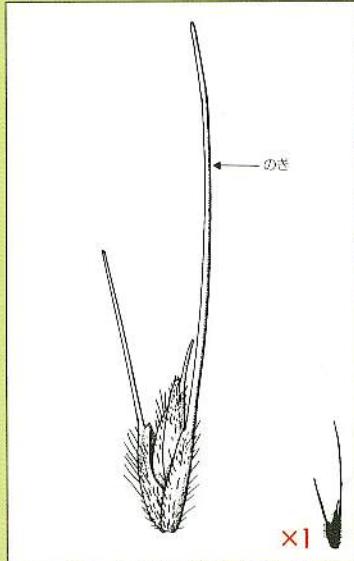
さらに市販の図鑑などで確認されるとよいでしょう。

## メナモミ類



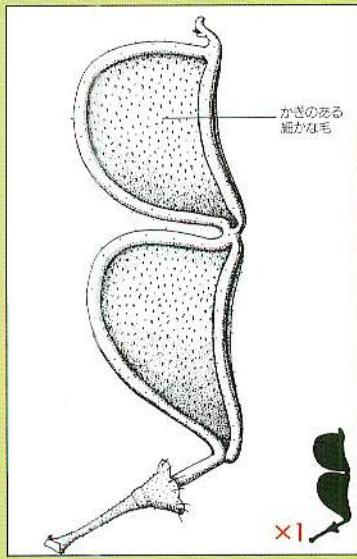
高さ1メートルほどになる1年草で、全体に毛の多いメナモミ、少ないコメナモミなどがあります。果実や種子に特殊な装置はありませんが、果実を取り囲む総包片にはねばつく腺毛があり、果実のかたまりごと動物や人にくっきます。河原や林縁などでよく見られます。

## チヂミザサ



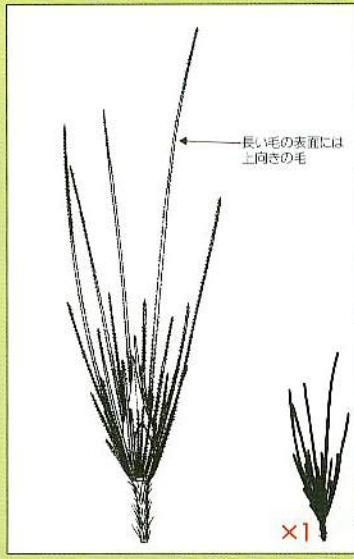
果実（小穂）は長さ3~4ミリで、長いのぞがあります。茎は地面をはい、高さはせいぜい20~30センチですので、靴やズボンの裾など足元によくつきます。葉はササに似た形で縁が波打つので、「縮みササ」の名があります。林内でよく見られます。

## ヌスピトハギ類



多くは3枚一組の葉がつき、さやにくびれがあって、眼鏡のような形をしています。果実の表面に鉤のある細かな毛があるので衣類によくつきます。代表的なひっつきむしで、日本には10種類以上あります。ヌスピトハギは草地や林縁によく見られます。

## チカラシバ



高さ70~80センチほどの大きな株をつくり、丈夫な茎やブラシのような大きな穂が特徴です。果実の基部には長い毛が輪生し、この毛には上向きの毛が並び、動物の体や衣服に付着します。グラウンドや道ばたなど日当たりのよい環境によく群生します。

# 調査票の記入のしかた

## 調査票は1カ所1枚

調べた場所ごとに調査票を1枚使ってください(足りなくなったときは、コピーして使ってください)。

調査票には、歩いた場所や日付、環境を、もらさずに記入してください。

## 地名の記入は正確に

歩いた場所、つまり採集された場所を地図に表すためには、なるべく正確な地名が必要です。できれば国土地理院発行の地形図(5万分の1、あるいは2万5千分の1)に表示されている地名で、歩いた場所の地名を記入してください。

## ひつつきむしを貼り付けて

集まったひつつきむしをすべてを送る必要はありません。種類が違うと思うひつつきむしを1個ずつ、調査票のイラストと組合わせて、これと思うところにセロハンテープで貼り付けてください。

異った場所で集めたものを、いろいろ混ぜて1枚の調査票に貼ったりしないでください。



## 調査票は折りただんで封筒へ

ひつつきむしを貼った調査票は、二つ折りにして所定の封筒に入れてお送りください。

## 調査票の返送をご希望の方は

調査票の返送をご希望の方は、おところ、お名前をお書きいただき、切手を貼った「返信用封筒」を同封してください。正しい種名を記入してお返しいたします。

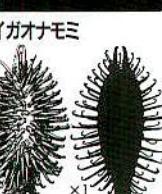
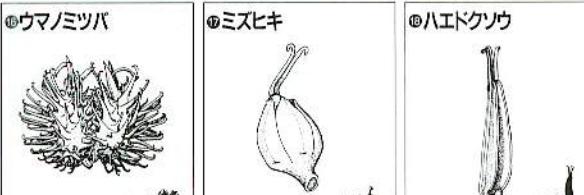
## [調査票の記入例]

氏名	
オナモミ類	
①オナモミ	②オオオナモミ
	
※ここには記入しないでください	
センダングサ類	
③コセンダングサ	④コバノセンダングサ
	
※ここには記入しないでください	
キンミズヒキ類	
⑤ヒメキンミズヒキ	⑥チョウセンキンミズヒキ
	
※ここには記入しないでください	
○○類の中でわからなかった場合は右の欄に貼ってください	
「オナモミ類まではわかるんだけど、オナモミかオオオナモミかよくわからない、あるいは「センダングサの仲間らしいけれどそこから先はどうも……」というような場合は、右の欄のそれぞれの箇のところにひつつきむしを貼ってください。	

左側が拡大図、右側がほぼ実物大のイラストです。総合せをして、これと思うところにひつつきむしをセロハンテープで貼ってください。  
大きさは、成熟の程度や環境による影響が大きいので、一つの目安と考えてください。

当てはまる項目だけを記入してください。

参加者番号は10ヶタです。  
参加者番号は、このてびきをお送りした封筒の宛名ラベルに印字されています。  
団体で参加された方は、代表者の方から番号を書いてください。

いた日 98年 月 日	歩いた場所		
 <input checked="" type="checkbox"/> イガオナモミ			
 センダングサ類 ①タウコギ    ②アメリカセンダングサ    ③センダングサ <input checked="" type="checkbox"/> ①タウコギ <input type="checkbox"/> ②アメリカセンダングサ <input checked="" type="checkbox"/> ③センダングサ			
 イノコズチ類 ①ヒカゲイノコズチ    ②ヤナギイノコズチ <input checked="" type="checkbox"/> ①ヒカゲイノコズチ <input type="checkbox"/> ②ヤナギイノコズチ			
 キンミズヒキ類 ①キンミズヒキ <input checked="" type="checkbox"/> ①キンミズヒキ			
 ノブキ			
 ①ウマノミツバ			
 ②ミズヒキ			
 ③ハエドクソウ			
 オナモミ類			
 センダングサ類			
 イノコズチ類			
 キンミズヒキ類			

「オナモミ類まではわかるんだけど……」というような場合は、この欄にひつつきむしを貼ってください。

歩いた場所の環境を、この表のなかから1つだけ選んで○を付けてください。

## 身近な '96 生きもの 調査

### ●調査票●

※ここには記入しないで下さい

参考番号 0130038240

■氏名 山川みどり

■歩いた日 1996年 10月 5日

■歩いた場所（その場所の住所）

東京 郡・道・府・県

郡（郡のある場合は記入）

市・町・村（特別区の場合は空欄）

江戸川 区（特別区の場合のみ記入）

江戸川

■歩いた環境（1.～17.の中から1つ選んでください）

森林	1. 鈴木林（身近な林）	森林の1～4を選んだ場合はささに○を付けてください	9. 溝渓・沢沿い
	2. マツ林		10. 林床（りんじゆう）
	3. スギ・ヒノキ林	どちらに1つ選んでください	11. 林道
	4. その他林		12. 林縁（りんえん）
	5. 竹林・竹藪		13. 造成地・堆立地
草地	6. 久々草など育の悪い草原	7. シバなど育のいい草原	14. 田の溝とあぜ
灌木	8. 地の周辺	9. 未耕種の道路	15. 猿籠地・休耕田
	10. 市公園	11. 蘭花道路	16. 池沼の周辺
	12. グランド	13. 造成地・堆立地	17. 川原
水辺	14. 田の溝とあぜ	15. 猿籠地・休耕田	
	16. 池沼の周辺	17. 川原	

※ここには記入しないで下さい

01	オナモミ	10	ヒカゲイノコズチ
02	オオオナモミ	11	ヤナギイノコズチ
03	イガオナモミ	12	キンミズヒキ
04	タウコギ	13	ヒメキンミズヒキ
05	アメリカセンダングサ	14	チヨウセンキンミズヒキ
06	センダングサ	15	ノブキ
07	コセンダングサ	16	ウマノミツバ
08	コバノセンダングサ	17	ミズヒキ
09	ヒナタイノコズチ	18	ハエドクソウ

コンピュータにデータ入力する際に利用するので、ここには何も記入しないでください。

# 気をつけていただきたいこと

- この調査は、みなさんの日常の生活の範囲内で行っていただくものです。ですから、この調査のためだからといって、わざわざふだんは行かないような所へ出かける必要はありません。
- とくに、危険な所や立ち入りが制限されているような所へは、お出かけにならないでください。また、調査は日中の明るいうちに行うようにしてください。
- 調査中に事故等に遭われてもお世話することができません。調査にあたっては事故やケガに十分にご注意ください。
- 今回の調査はひっつきむしをむやみに集めるものではありません。1株からすべての実やタネを探つてしまったり、株そのものを引き抜いたりすることは、絶対にしないでください。
- 小学生以下の方が調査される場合は、危険防止のため必ず保護者の方や先生がご指導くださるよう、お願ひいたします。

## さまざまな情報を マルチメディアで

身近な生きもの調査に関する事はもちろん、他の緑の国勢調査に関する情報などをFAX、インターネット、パソコン通信で取り出すことができます（情報は2ヶ月に1回程度で更新予定）。

1 FAXサービス (NTT World Nature Network) ..... FAX番号 03-5476-4901 (4301 #)

\*ダイヤル回線の場合は、ガイダンスが聴こえたら、電話機のスイッチを、「PB」または「トーン」に切り替えて下さい

2 インターネット (NTT World Nature Network) ..... アドレス <http://www.wwn.or.jp/wwn-n>

3 パソコン通信(EICネット) ..... アクセスポイント 03-3595-3271

\*NIFTY-ServeまたはPC-VANから接続する場合は「他のネットワークへの接続」メニューから「EICネット」を選択

本書はつきの方々の協力を得て作成しました。

[企画検討] 自然環境保全基礎調査検討会  
身近な生きもの分科会

槐 真史 (厚木市教育委員会生涯学習課)  
(座長) 大場 秀章 (東京大学教授)  
大森 雄治 (横須賀市自然博物館学芸員)  
浜口 哲一 (平塚市博物館学芸員)  
望月 賢二 (千葉県立中央博物館自然史・歴史研究部長)

[執筆協力] 大森 雄治

[写 真] 大森 雄治・ネイチャープロダクション

[植物図版] 中島 瞳子

[イラスト] ひらかわ しょうじろう

[デザイン] デザインルーム風都市

身近な  
'96 生きもの  
調査



### ●調査のてびき●

■ 平成8年8月 第1刷発行

■ 発行

環境庁自然保護局

計画課自然環境調査室

〒100東京都千代田区霞ヶ関1-2-2

☎&FAX03-3591-3228

★再生紙を使用しています。